



期 待

副 社 長 森 嶋 東 三

日本経済の環境はオイルショックを契機として、すっかり変った。高度成長を謳歌し、国も企業も個人も順調にきた過去から、一転して混迷の時代に入ってしまった。我々はこの中から何とか切抜け、新しい流れに乗るべく努力を重ねる必要に直面している。

まさに「発想の転換」「新しい再出発」が望まれるが、とくに技術・研究部門に対して熱い期待が寄せられていることも、皆さん既に御承知のことと思う。

私は当社に来てから未だ間もないが、偶々機会を与えられたのを幸いに、思いつくままの感想を述べたい。

- (1) 営業第一線の支援に当たっている技術サービス部門は、我社の今日を支え、明日への力を蓄える源であろう。顧客のニーズに敏速的確に応え、更にニーズを引き出す当部門の働きが、東曹の名声と信頼を一層強くすると思う。
- (2) 生産プロセスの維持改良に当たっている技術管理・工程管理の部門は、製品の質の安定向上、原単位の効率化などにより、利益率を高める。身近かにある設備と産出物を、一日一日、清新な気持ちで見直し、何かのプラスを加えてほしい。
- (3) 現有の製品に新しい生命を与える研究開発部門には、我社の明日を頼みたい。新しい用途・グレード・組合せ・製法・コストなどは、いずれもその製品の需要の巾と深さを加え、競争力を強化すると思う。
- (4) 新製品や新分野の探究に当たっている企画開発部門には、我社の将来がかかっている。低成長下の成長企業の多くは新製品のウェイトが大きいというのが世界的な例であり、また当面は大型の技術導入の可能性が乏しい状況なので、自主開発の重要性はいよいよ高い。全社をあげての期待に力強く応えてほしい。

私は「研究報告」や「研究経過月報」を読むことに努めている。内容を人なみに理解することは未だ難しいが、技術陣や研究陣の意欲のあり方が行間に出て来るし、我社の可能性がその中に秘められていると思う。

どうか、各セクションの横の連絡・縦の意志疎通を一層充実して、毎日の仕事を計画的に着実に進め、秀れた成果を挙げられることを、心から期待している。